

保育方針	○豊かな自然に恵まれた環境を活かし、四季を通して遊ぶ中で知性と感性を育む保育を行います		保育目標	○身の回りにある「いのちあるものの存在」に気付き、それを等しく大切に子ども	
	○仏様に手を合わせる中で、自らを省みること、自分と自分を支えてくれる存在を大切にすることの尊さを伝え、思いやりと感謝の心を育む保育を行います			○「ありがとう」と「ごめんなさい」の気持ちを素直に伝え、友だちと共に成長し合う子ども	
		○子ども達の「やってみよう！」の気持ち、好奇心と自主性を尊重し、適切な援助を行うことで「できた！」につなげる保育を行います		○何事にも意欲的に取り組み、様々な挑戦を繰り返す中で自信を育み、自立心を備える子ども	
		○子ども同士の関わり合いが深まるよう、言葉による援助や環境構成に配慮した保育を行います		○お話をよく聞き、思いを伝え合う中でお互いを認め合い、一人一人が持つ自由な創造性を集団の中で更に深める子ども	

評価項目	評価内容	前期：4月～9月		後期：10月～3月	
		評価	取り組み状況	評価	取り組み状況
保育の内容について	・保育課程・保育目標・保育指導計画等は、定期的に評価見直しを行っている。	A	クラス担任が作成したものを主任保育士が内容を確認。適宜助言を行い、最終的に園長が承認。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・保育目標は全職員で検討することで共通理解を図っている。	A	昨年度末に見直した新たな保育目標のもと、共通認識が図れた。	A	同上
	・指導計画は、子どもの実態を踏まえ発達過程に応じ作成している。	A	昨年度の子どもの様子やを踏まえ、見直しを実施。	A	同上
	・子どもへの援助・支援は、保育指針に基づき適切に行っている。	A	保育指針に基づき行った。また、作業療法士の定期的な訪問を今年度も継続し、いわゆる気になる子に対して適切な関わり方ができるよう、助言を受けた。	A	同上
	・環境構成は、保育や子どもの発達過程を常に意識し工夫している。	A	環境構成は前年度を踏襲しつつ、年度ごとの子どもの様子に応じて改善を行っている。	A	同上
	・行事はねらいを明確にし、計画や実施に十分生かしている。	A	月案または期案でねらいを明確にし、行事を実施。	A	同上
	・障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や対応に配慮している。	A	指導計画の中で障害児に対する保育は個別の項目として検討・配慮している。また、作業療法士に定期的に発達相談を行い、適切な関わり方となるよう配慮した。	A	同上
	・小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて保育の内容や方法など、保護者に伝えている。	A	幼保小連携会議を通じアブローチカリキュラムを作成。また、今年度は公開保育の担当園となっているため、近隣の小学校(松ヶ丘小学校)とは例年以上に連携を図った。	A	前期に立てた計画に基づき、公開保育を実施。当日ご参加いただいた先生方から頂いた意見を職員と共有し、今後の改善に役立てた。
健康・食育及び安全について	・子どもの健康管理は一人一人の健康状態に応じ対応している。	A	子どもの顔色や機嫌などに注意し、対応にあたった。乳児の午睡については安全性を向上させるため、ベビーセンサーを導入した他、研修で学んだ午睡時の確認方法を取り入れた。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・緊急時(事故、感染症の発生時など)における子どもの安全確保のための体制を整備している。	B	ヒヤリハット・アクシデント報告書については前年度同様の運用を継続。ケガ発生時などにはクロスチェックを徹底し、子どもの安全確保を図った。しかし、前年度の実地指導で指摘された事故防止マニュアルの策定については着手ができなかった。後期に対応を行う。	A	長野市から提供された資料を参考に園の事故防止マニュアルの策定を実施し、園内で共有した。
	・子どもの安全確保のために防災に対する計画を立て定期的に訓練を実施している。	A	年度当初、消防署に届け出た計画に基づき避難訓練を実施。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・健康や安全な生活に必要な習慣が身に付くための援助と共に家庭への情報提供を行っている。	A	園だよりや個別の相談を通じて情報提供を行った。	A	同上
	・楽しく食事ができるような配慮や環境の工夫をしている。	A	クラスごと、3歳以上児はグループ分けも定期的に行い、楽しい食事環境の構築に配慮した。	A	同上
	・食物アレルギーの対応や誤食防止に配慮している。	A	入所時にアレルギーに関する聞き取りを行い、調理員との連携も行き適切に対応した。	A	同上
子育て支援について	・保護者からの子育てに対する相談や意見などには適切な対応・援助を行っている。	A	作業療法士からの助言も取り入れ、就学相談が必要な子については保護者に適宜打診した。今年度はYYプロジェクト導入という大きな変化があったが、事前に保護者説明会を開催したり、QA票のやりとりをし、保護者の不安解消に努めた。	A	YYプロジェクト導入初年度ということで継続した取り組みの中で子どもたちの育ちを支えることができた。運動会やお楽しみ会、保育参観では例年とは一味違うこども達の成長の姿を保護者の方にお伝えできた。
	・地域の関わりを大切にし、おひさま広場、育児相談、一時預かりなど積極的に取り組んでいる。	A	予定していた年16回の園開放のうち11回を実施。育児相談については都度実施した。	A	予定していた年16回の園開放のうち、残りの5回を実施。育児相談については都度実施した。
職員の資質向上について	・計画的に園内研修を行っている。	A	市主催の研修会をはじめ、加盟している長野市私立保育協会、長野市仏教保育連盟の研修に参加。ポラリス社(日本保育チームマネジメント協会)の研修会も実施。YYプロジェクト導入に先立ち、県外の園への見学も積極的に行った。	A	YYプロジェクトについては月に1度、専門の指導員による実践的な園内研修を実施。その他については前期に引き続き同等の内容を継続。
	・諸研修の成果を保育に生かし、子どもの育ちに反映している。	A	研修で学んだ情報や園見学を通じて学んだ情報は適宜保育内容や環境構成に反映している。園全体で取り組むような課題は別途職員会を通じて改善に向けた検討を行った。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・自己評価・第三者評価を定期的に行ない保育の改善に努めている。	B	自己評価を実施し保育の改善に努めた。第三者評価については未実施。	B	第三者評価については未実施のままとなった。
運営・管理について	・保育所の課題について共通理解を深め、協力して改善に努めている。	A	職員会を通じ園が抱える課題について共通認識を行っている。キャリアパスの運用開始に向け、日本保育チームマネジメント協会の協力のもと、長野県内数園が共同参画する勉強会がスタートした。	A	YYプロジェクト導入初年度の終了を迎えるにあたり、次年度につなげていくために今年度に明らかとなった課題の共有と解決策の検討を職員とともにこなした。キャリアパスの運用開始に先立ち、マネジメントの理解者を増やすことができた。
	・職員会を適切かつ効率的に進めている。	A	月2回程度職員会を実施。職員の負担軽減を目的に、夕方ではなく昼間(13:30～14:30)に実施。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・守秘義務、法令の遵守をし、個人情報の取り扱い及び苦情解決など、適正かつ適切に行っている。	A	第三者委員の設置とともに苦情対応窓口を設置し適切に行った。	A	同上
	・施設内外・設備・遊具などの安全点検を計画的に行っている。	A	環境点検表に基づき、毎月安全点検を行った。YY関連の活動を支援していくため、遊戯室にマット付の壁を設置し、子ども達が活動しやすいよう配慮した。	A	同上

評価	目安	前期総合評価	今後の課題と改善策	総合評価	評価理由
A: 十分に達成されている	90～100%	A	・事故防止マニュアルを作成し、園内で共有できた。引き続き生きたマニュアルとなるよう適宜見直しを図っていきたい。 ・YYプロジェクトについてはまずは定着させることが大切。実践に伴う小さな課題は月に一度の振り返りを通して改善策を都度検討していくが、俯瞰的な視点としてYYプロジェクトは小市保育園として適切な進め方を模索する必要がある。年度末には今回取り組んだ内容を全体で振り返りを行いたい。 ・キャリアパスの運用に向けて県内数園との共同勉強会がスタートした。園長、主任、副主任が参加しているが今後の本格運用を見据え、しっかり取り組んでいきたい。	A	・昨年度に実施した保育目標等の見直しにより、園の保育観が以前よりも分かりやすくなり、課題も明確になった。 ・新たな取り組みが始まった1年となり、調整事項が多かったが3歳以上児を担当した職員の尽力により順調な滑り出しとなった。今回取り入れたYYプロジェクトについては継続して見直しを図りつつ、園内の理解者(経験者)増やし、相互に協力し合える体制を築いて定着を図っていきたい。 ・昨年度より課題となっているキャリアパスの運用については今年度も開始に至らずとなってしまうが、15時間のマネジメント分野の研修には8割以上の常勤職員が受講を完了し、運用に必要な理解者の増加は達成でき、準備は進めることができた。
B: ほぼ達成されている	70～90%未満				
C: 取り組んでいるが不十分	50～70%未満				
D: 取り組みが不十分	50%未満				